

参加者の感想



学校法人平松学園大分東明高等学校 2年
池邊 愛美
(高校生優秀賞・大分県代表生徒)

ICTの使い方をもう一度考えなおすきっかけ作りとなりました。あくまでも人間が主体となり技術を統制し、発展していくことの大切さを踏まえたうえで、ICTの活用法を考えていくことができました。

議論を進める際には、たくさん問題点をあげることも大切であるが、一つの問題点について、様々なアプローチを考え、それを話し合っていくことや、新しいプランを導入する際、誰にどのような影響を及ぼすのかを考えることを心掛けました。

○大分県代表として全国サミットに参加した感想

新しい策をチームのメンバーと共に考え、そして、まとめあげることはとても楽しく、相手の方々とよりよい物を作ろうと意識することの大切さを改めて感じることができました。



大分県立日田高等学校 2年
熊谷 和也(審査員特別賞)

初めて会う方々も多く、緊張もあったが、話し合いにおいて意識的に発言をすることができ、最終的には賞につながる発表もできたので、とても実りある会になりました。

参加するからには、何としてでも賞へと食らいつかなければと意識していたため、話の主導権を取り、受動的ではなく能動的な議論となるよう、心掛けました。

もっとより良くするには、どうすれば良いかを意識して、日々の様々な活動へと取り組んでいきたいと感じました。加えて、ICTの利活用にも節度を持っていきたいと思っています。

<その他の高校生の感想>

- ・自分と違う意見や違う価値観を持った人と討論ができたことによって、自分の視野が広がった。
- ・日本はやはり情報社会において課題がまだまだあると思った。
- ・リモート上で会ったこともない人と話をするのは難しかった。
- ・現状から今後に生かしたいことや、こんな風になったらいいという事を具体的に議論ができて楽しかった。
- ・初対面の人とたくさんのことについて意見を交えてみたいと思った。
- ・未来のICTの為に、自分たちでICTの事について学んだり、日常生活でICTを活用したり、改善案なども考えていきたいです。

<その他の中学生の感想>

- ・他校の生徒と話すのは新鮮で、面白かった。
- ・私はZOOMを使うのが初めてだったのでうまく行かか心配だったがスムーズにできたのでよかった。
- ・みんなと意見を言い合うことでより考えが深まっていったので、ワクワクした。
- ・人前で話すいい経験にもなったので、非常に満足だ。
- ・ICTはすごく便利なものであると感じたが、行動制限の中ではまだ改善の余地があると感じた。
- ・これからはICTを使うことが当たり前前の時代になってくると思うので、誰もがICTを使うことができる社会を形成するべきだと思った。
- ・今日話してやっぱり対面でないと話づらいなあと感じた。



大分県立大分豊府中学校 3年
長坂 采美(中学生優秀賞)



最初は不安でしたが、みんなで積極的に意見を出し合ううちに、議論が楽しくて仕方なくなりました。自分の出した粗い意見が、みんなとの議論によって磨き上げられていくのを感じ、嬉しくなりました。貴重な体験ができてよかったです。

グループワークではとにかく沈黙を作らないように気をつけました。私はあの誰が喋るかを探り合う空気に耐えられませんでした。また私は発表の時、ジェスチャーを使うことを心掛けました。ZOOM上の発表なので、私たちの熱心さが伝わりにくい分、工夫をしました。

私は今回の議論で、今の自分が「自己肯定」にこだわっていると気づきました。みんなで同じようなことを投稿し合って、妙な満足感を得ている現代人は不安定です。ICTを使うには、まず「自分」という存在を強固で、揺るがないものにしないとイケないなと思いました。



大分県立別府鶴見丘高等学校 1年
宗野 優輝(大分合同新聞社賞)

僕は学校や学年の違う人とグループディスカッションをして、決められた一つのテーマをより多くの客観的な視点から捉えることができたと思います。今回のように自分の知らない人たちと話す機会はあまり多くはないので、本当に良い経験でした。

僕が議論を進行する中で意識したことは、一人ひとりの意見の中から共通している部分を探して、それらをもとに班全体での意見にまとめる、ということです。今回、僕はこれを意識することで班全員の意見を一つにまとめることができました。



今回は
オンライン開催!

中学生 高校生 ICT 2020 in 大分 カンファレンス

「新しい生活様式とICT 活用法
～行動制限の時代に生きる～」

中学生・高校生がネットやスマホ、ICTの安心・安全な利活用について、自ら考え、議論する「中学生・高校生ICTカンファレンス2020in大分」が、令和2年10月10日(土)にオンラインで開催されました。大分県内の高校生30名、中学生10名が各学校からそれぞれZOOMで参加し、テーマ「新しい生活様式とICT活用法～行動制限の時代に生きる～」について、議論しました。

日時 令和2年10月10日(土) 13時～16時30分 **実施方法** オンライン開催(ZOOMでの参加)

参加 40名(高等学校9校30名、中学校3校10名)

大分県立大分工業高等学校、大分県立津久見高等学校、大分県立別府鶴見丘高等学校、大分県立由布高等学校、大分県立日田高等学校、大分国際情報高等学校、大分東明高等学校、別府満部学園高等学校、大分県立大分鶴崎高等学校、大分県立大分豊府中学校、豊後大野市立清川中学校、中津市立東中津中学校

主催 大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所
高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体) 安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催 内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省、大分県教育委員会、大分県高等学校PTA連合会

後援 大分合同新聞社



高校生 ICT カンファレンスって何？

高校生ICTカンファレンスは、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。大分県は2013年度から開催し、今回は8回目となります。高校生の意見を国の機関に届け、全国サミットにより提言をまとめ、ファイナリストに選ばれた高校生が、関係省庁で発表を行っています。大分県では令和元年度から『中学生・高校生ICTカンファレンス』の開催となり、中学生も参加しています。

ICTカンファレンスの開催目的

以下の目的で、中学生や高校生が学校の垣根を越えて話し合います。

- ①初対面の相手と「考える、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」ことに挑戦する。
- ②スマートフォンやインターネットを安心・安全に使うための情報モラルを深く考える。



参加生徒の環境

今回のカンファレンスはオンライン開催のため、参加者のネットワーク環境や利用する端末、緊急時の対応などから、参加生徒は各学校に集合してカンファレンスに参加しました。

- 場所：各自の学校に集合し、一人ずつ離れた場所（教室等）で参加
- 利用端末：iPadまたはパソコンを一人2台ずつ（ZOOM用と発表スライド用）
- マイク付きのヘッドフォンを準備
また、緊急時に現地でサポートいただけるよう、担当の先生方にご協力いただきました。



発表

各グループはGoogleスライドを利用し、発表資料を作成しました。グループ内の参加生徒は分担しながら、同時にスライドの編集を行い、限られた時間の中で、考えをまとめました。

議論を後押しする社会人ファシリテータ

参加生徒たちのグループワークを後押しする役目として、地元のIT企業や教育関係者等の社会人にファシリテータを務めていただきました。

もっとよりよくしていくために

- ・zoomやパワーポイントを使う
→企画、授業
- ・全員にタブレットを貸し出し
・半日家 半日学校
→対面とオンラインの良さを活かして使い分け

課題 環境を整える為の費用

課題を解決するために

高校生へのネット免許のようなものを作って理解者を生徒側にも増やしていく

授業などで理解を深める機会を設ける

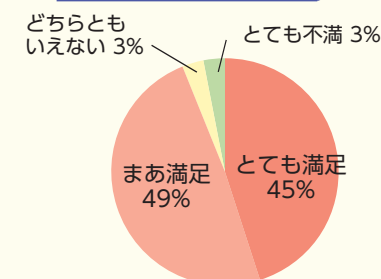
生徒も教師も共に使っていくことのできる技術との向き合い方が必要なのは無い

審査・表彰

各グループの発表については審査員による審査が行われ、各賞が決定しました。また参加生徒全員による投票でグループ賞が決定しました。

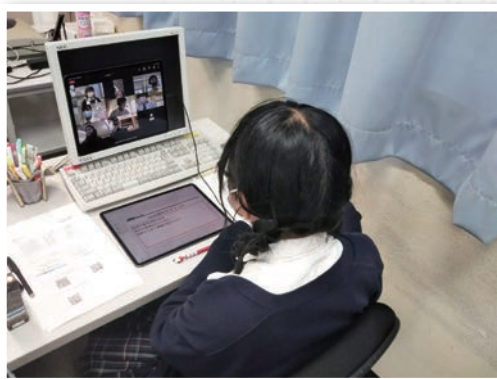


参加者の満足度



当日の流れ（大分開催）

今回は、参加生徒一人一人がパソコンやタブレットなどの端末でZOOMを使って参加しました。また全員が一堂に参加する「全体ミーティング」とグループ毎の「グループミーティング」を行いました。



タイムスケジュール

全体ミーティング ▶▶▶

- 12:50～ 参加者ZOOMログイン完了
- 13:00～ 開会、趣旨説明
- 13:05～ オリエンテーション、ファシリテータ紹介

グループミーティング ▶▶▶

テーマ 「新しい生活様式とICT 活用法 ～行動制限の時代に生きる～」

- 13:15～ 自己紹介、アイスブレイク
「外出が制限される中で、どのように過ごしていましたか？」
- 13:30～ グループ ワーク1
『テーマ1 学業、勉強などの場面』
- 13:50～ 休憩
- 13:55～ グループ ワーク2
『テーマ2 人とコミュニケーションをとる場面』
- 14:15～ 休憩
- 14:20～ まとめ、発表の準備
- 15:00～ 休憩

全体ミーティング ▶▶▶

- 15:10～ 発表
- 16:00～ 投票・審査
- 16:20～ 講評・表彰
- 16:30 終了



各地域

アイスブレイク

自己紹介等をして、少しずつ打ち解けていきます。

議論・まとめ

5～7人のグループで、テーマに沿った議論をし、提言をまとめます。

発表

まとめた提言をグループ毎に発表し、県代表を決定します。

全国

サミット

全国各地域からの高校生代表生徒がサミットに参加し、政府への提言をまとめるための議論を行います。サミットでも代表生徒を選考します。



大分東明高等学校
2年生 池邊愛美さん

関係省庁

最終報告会

サミットの代表生徒が、共催府省庁に、高校生の考えを提言します。

高校生ICT
カンファレンス
の流れ